

Planningの関係を見直さなければならないであろう。必要な情報が豊富で正確であるならばPlanの整合性は持続力をもつが、欲求だけが先走りして、つじつま合わせの数字をあとから付け加えたようなPlan（本当はこれはPlanとはいえないが）は、短命であるのは仕方ないことである。

わが国では基礎資料が乏しいまゝPlanningを行うためPlanningがブラック・ボックス的になり、Planに整合性が乏しく、したがってそれを権威でカバーしているということになるわけである。

かつて公的なPlanは封建領主や王侯の意志の中にあり、一般の者はそれにたゞ従う形をとっていた。その習慣が今日にまで残存しているような気がする。この関係を正すためには一般の人々がもう少しPlanningに興味をもつことが必要であると思う。Planningを建設関係の分野の人々の占有物にしておいてはいけないのである。

私的な意味でのPlanningという行為は日常的にわれわれの周辺にいろいろとある。例えば旅行の計画とか、同窓会の企画あるいは1ヶ月の家計のたて方などもそうである。これらは何度も経験していると、自然に要領がわかってくるから、次の場合にはどうすればよいかがおおよそ見当がつくようになる。Planに確定性が増してくるのである。都市計画なども同じことで、いくつかの事例を経験した人のPlanは、新卒者の理詰めのPlanより尊重されがちである。こゝにも経験主義が生きている。計画が未来と関係する限り、人々はそれに対して憶病になるからであろう。

しかしながら、未来に大きな夢を描くことはたとえそれが実現しなくても楽しいことである。旅行の計画などコースと時間を考えるだけでも一つの楽しみである。計画するということが、合理的な生活行動の指針を得るためばかりでなく、それ自身が実現とは無関係に楽しいことだという一面をもつが故に、人々は常にいろいろと計画をたてるのではないだろうか。そう思って現在のわが国の政府の諸計画や都市計画などをふりかえってみてみると、なるほどと納得がいくのである。

Dさんへの手紙

中野 尊正

お手紙拝見しました。1年半の日本留学という、子供の時からの夢が実現しましたことを、心からおよこび申しあげます。貴女の恩師C教授の御依頼もあって、貴女の日本での御世話をすることになりましたことを光榮に思います。

前便にでも申しあげましたとおり、フィールド・ワークの御世話をしつづけたい方には、すでに御手紙を差上げてありますので、御含み下さい。あらたな御希望がございましたら、どうぞ気楽に申して下さい。研究は貴女自身がするのであるから、貴女の若い、生きいきとした洞察力で、疑問をきりひらいて下さることを期待します。

フィールドが、日本の北から南までと広域にまたがっておりますので、貴女の研究テーマにこだわらずに、多様でユニークな日本の自然と文化を見て頂きたいのです。ニュージーランドと比べて、自然のなりたちには類似点も多いのですが、人々の生活や文化には、貴女にとって、きっと、いつまで

も心に残る、そして貴女の地理学研究の方向に、大きな影響をなげかける数多くのことがあると信じます。

貴女と同じ年令のころ、はじめて内蒙古の自然と文化に接したことが、35年をへた今日なお、自然と人間とのかわりに、強い関心を持ちつづけることになった大きな要因であることを、わたくしは否定したくないのです。感受性の強い、若い時代の体験はかけがえのない貴重なものです。正式の計画というのでは重荷でしょうから、折にふれ、感じたままを、素直に記録していかれることを願ってやみません。

1953年に、国連のフェローとしてオランダに約1年滞在した折、戦争のいまわしい思い出をのりこえて、親切にして下さった人々のことが何時までも脳裏をはなれません。女流ピアニストのCさんは、クリスマスの夜を、オランダの高名な作曲家の「富士讃歌」を弾いて歓待して下さいました。あの時の、富士の誕生をうたうピアノの音は、いつまでも耳底からきえないほど印象的でした。本屋のAさんは、収容所での苦しい思い出を語りながらも、これからは仲よくしていこうと大きな手で握手をしてきました。日本研究家のFさんは、なにくれとなく心を配って、わたくしを援助して下さいました。こうした、心あたたまつきあいが縁で、それから四度、五度とオランダを訪れ、旧交をあたためてきました。

ニュージーランドでも、数多くの方々の恩情に接することができました。マオリ人の母親をもつ人もいましたが、両親ともども、親切して下さいました。わたくしの拙い文章を、何回もブラッシュアップして下さいましたBさんも、忘れられない人の1人です。

人間にとって、心ほど大切なものはないと考えるようになりました。貴女が、入港する日本商船をみて、日本への夢をふくらませ、日本語を学び、そして日本への留学をはたしたことは、本当にすばらしいことだと思います。その夢を、あこがれの日本で、貴女自身がふくらませていくのを、わたくしは、静かに見守りたい。

では東京でお目にかかりましょう。

山中湖のワカサギ釣り

能勢幸雄

所用ではじめて筑波大学に行って、一晚、大学の中の立派な宿舎に泊って昨日帰京した。

昔、霞ヶ浦のワカサギの人工採卵や淡水真珠貝の養殖場の見学に出かけた時には、土浦の駅前はずい分とひなびたところで、串にさした素焼きのワカサギや、鰻やその他の湖産の魚の佃煮などを売る土産物屋がたくさん目についたものだった。むろん、今ではすっかりモダンになってしまって、駅前にはもうそんな店は一軒も見あたらない。しかし、駅のKIOSKで、ワカサギや小エビの佃煮の詰めあわせを一折り買うことができた。百貨店でも、どこにでもある珍しくもないものだが、昔風の素朴な包装で、何の何兵衛商店謹製というのが気にいったのである。

帰宅して、買って来た佃煮などで一杯やりながら、家人に筑波大学の様子や、土浦の話などをした。